



北海道大学キャンパスマスタープラン 2006



CAMPUS MASTER PLAN 2006
HOKKAIDO UNIVERSITY



はじめに

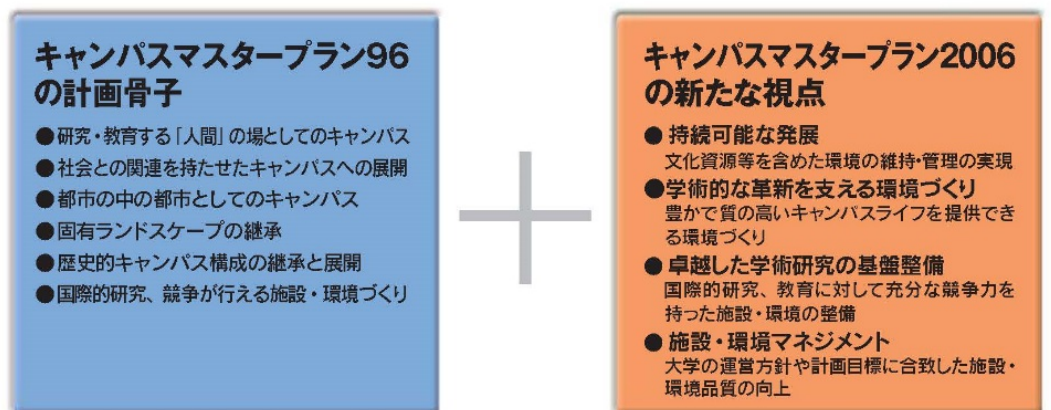
北海道大学は1997年2月に最初の「キャンパスマスタープラン96」を策定しました。これは、21世紀に向けた大学の将来像を現実化させるため、施設整備の基本方針を定めるキャンパス計画として策定されたもので、国立大学のキャンパスマスタープランの先駆けとなりました。

今回策定された「キャンパスマスタープラン2006」は、「96」の骨子を継承するとともに、新たな視点として、様々に変化する大学の役割や組織に対応したキャンパスの空間を整備することにより可能となる「持続的な発展」と、大学運営に資するため柔軟に対応する「施設・環境マネジメント」を重視した計画となっています。

また、平成16年7月に本学と北海道、札幌市、北海道経済連合会、北海道経済産業局が締結した地域連携協定を背景に大学と都市との連携した施設計画の構築も考慮したこと、さらにアクションプランとして達成すべき計画が具体的に明記されていることなども特徴となっています。

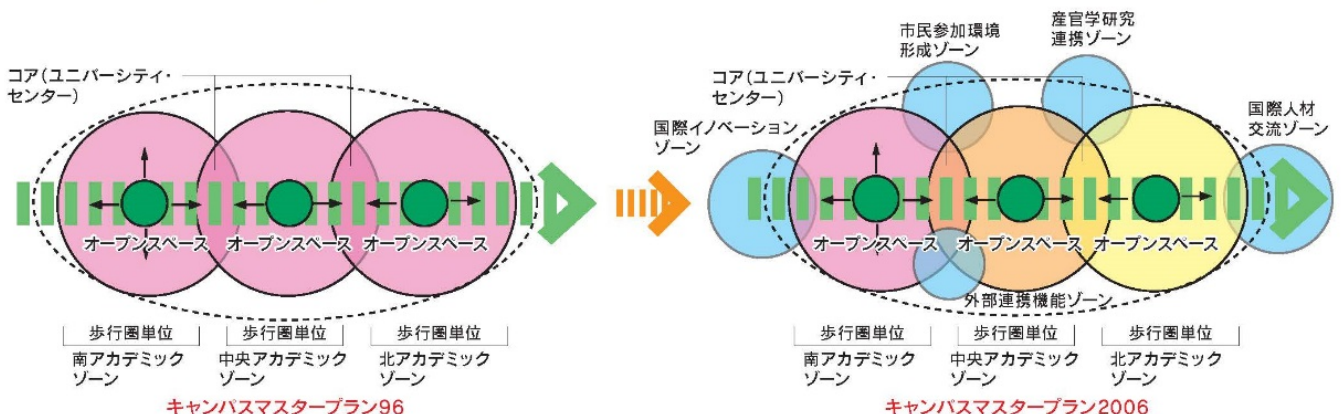
マスタープランの目標

■「キャンパスマスタープラン2006」の目標



■空間構成原理

- 北キャンパスの空間的位置付け
- 歩行圏として完結しうる教育・研究の場(アカデミックゾーン)の空間的構成
- 全学共用施設を中核として構成されるユニバーシティセンターの空間的構成
- 新たな構成単位としてのコミュニティ・ゾーン
- 国際交流ゾーンの明確な位置付け
- 周辺地域と連携した土地利用
- 新たな構成単位としてのコミュニティゾーン



マスタープランの構成原理

「キャンパスマスタープラン2006」では、「96」で提示され、実行に移されてきた空間的骨格を引き継ぎつつ、さらに、教育・研究の目標、計画の変化に柔軟に対応するための施設・環境のマネジメントを重視した計画構成になっています。

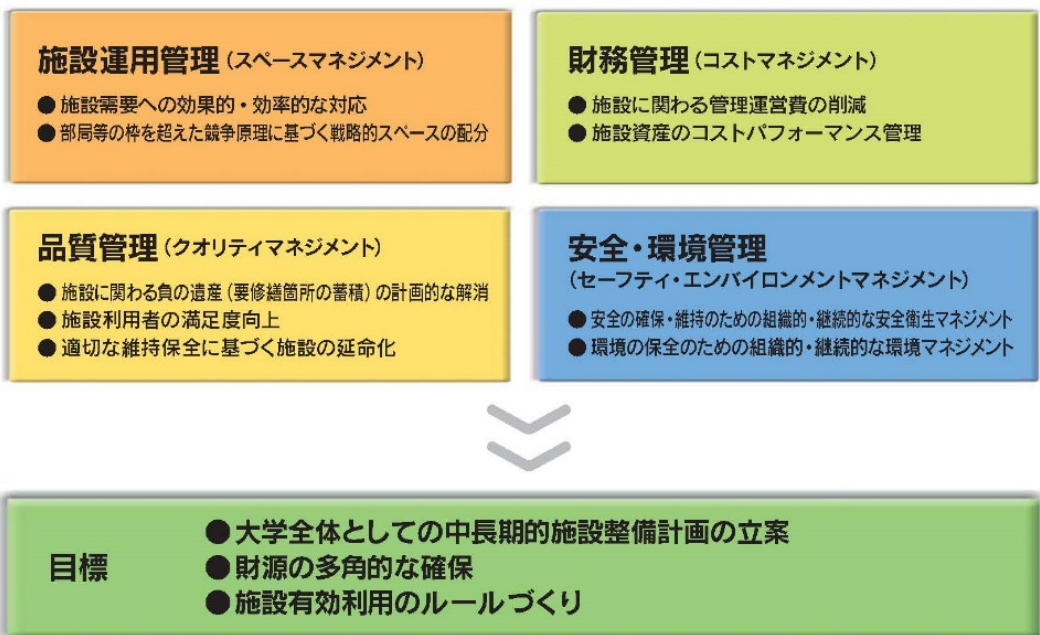
キャンパスマスタープラン2006の構成原理



■持続的発展を支える視点

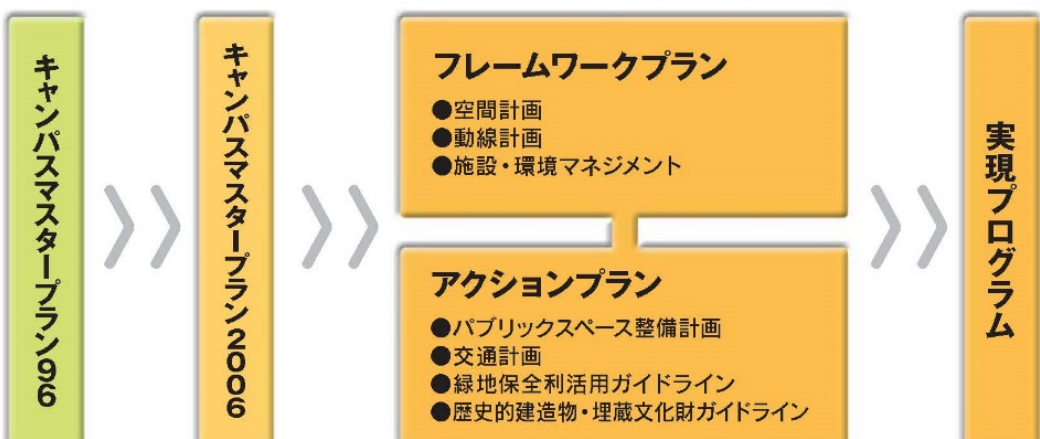
- 環境：環境の保全、エネルギー消費の軽減、周辺地域への配慮
- 活動：変化に柔軟に対応する施設環境整備のプログラム
- 組織：大学構成員の共通理解と時間軸を見据えた実現プログラム
- 経営：持続的な教育を展開する基盤づくり、新たな文化創出の場づくり

■施設・環境マネジメント



■実現プログラム

「キャンパスマスタープラン2006」は、大学の大きな経営方針であるアカデミックプラン実現のためのフレームワークプランとアクションプランの2つで構成されています。その実現を図るためには、具体的な実現プログラムにおいて検討されます。

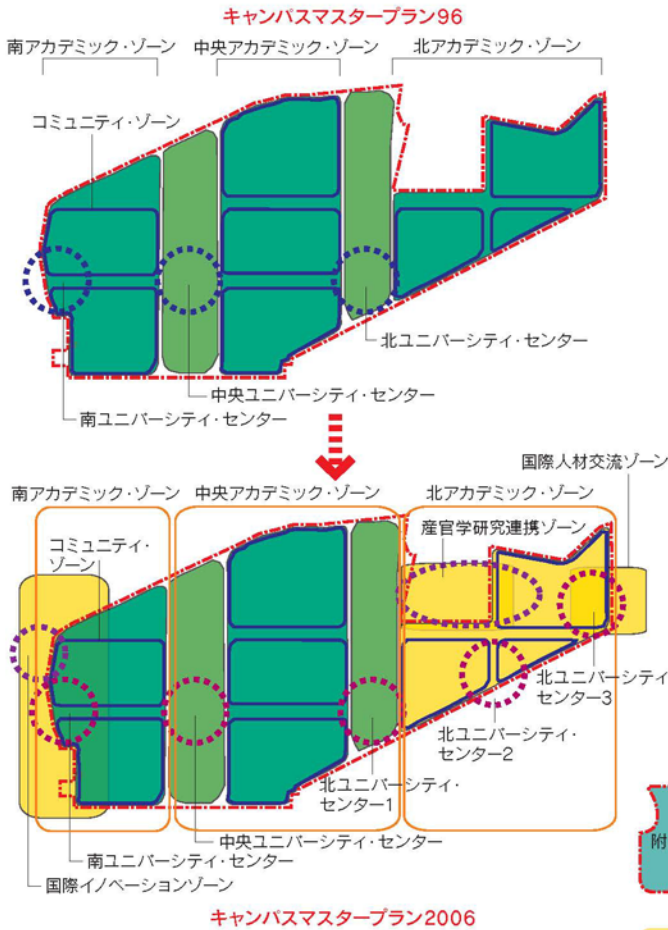


フレームワークプラン

FRAME WORK PLAN

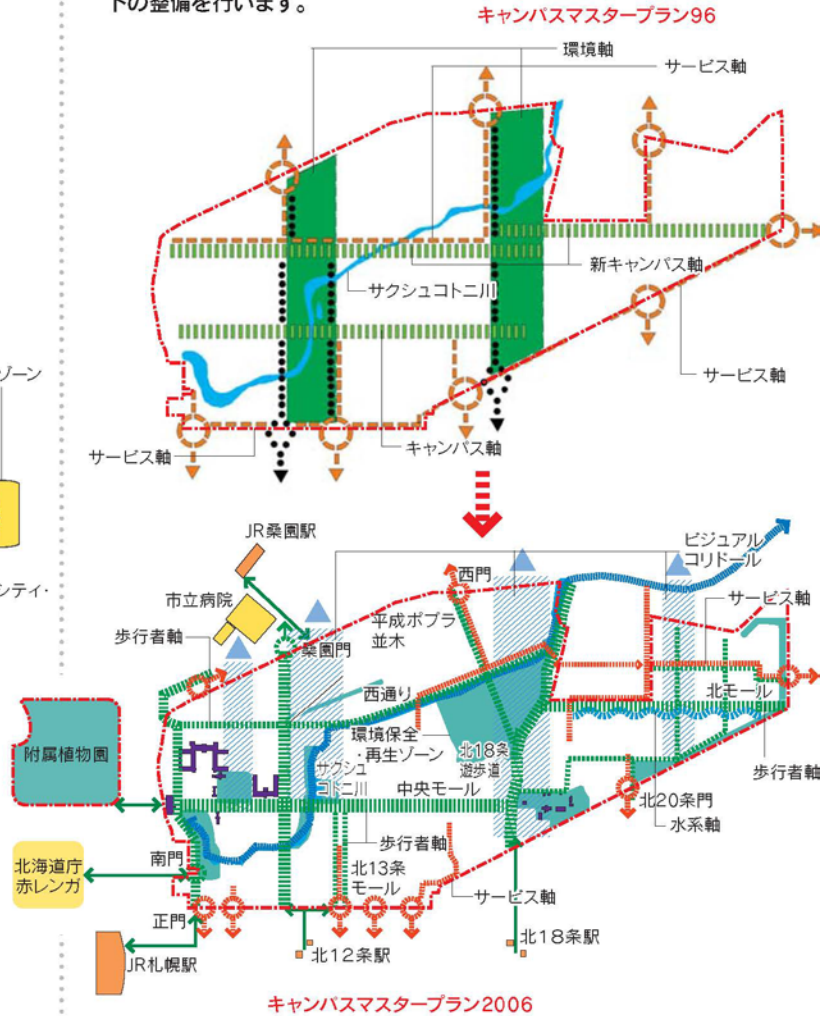
空間計画単位

- 「[96]」で示された3つのアカデミックゾーンを大きなゾーニングの骨格としつつ、各ゾーンにそれぞれ現在まで蓄積してきた空間の特徴を活かした整備を行います。
- キャンパス空間のアメニティの向上と空間構成を明確にするために、パブリックスペースを核としたユニバーシティ・センターを各ゾーンに配置します。



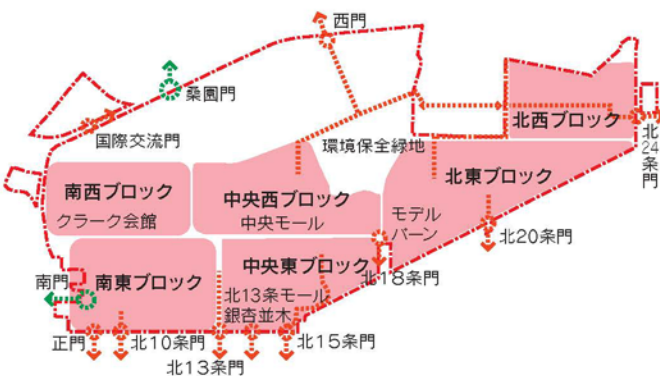
キャンパス軸の構成

- 「[96]」では、キャンパス軸、環境軸、サービス軸の3つの軸でキャンパス全体の空間構成とつながりを示しました。
- 「[2006]」では、キャンパスゲートより近隣のゾーンにアクセスするトラフィック・セルのシステムを構築し、歩行者動線と車両動線を交錯させない動線の骨格を形成します。
- また、「[96]」で重要な骨格として位置づけられた中央モールと西通り、北モールを南北の基軸としてキャンパス全体の歩行者動線のネットワークを形成します。
- キャンパス周辺の都市施設との関係を考慮しながらキャンパスゲートの整備を行います。



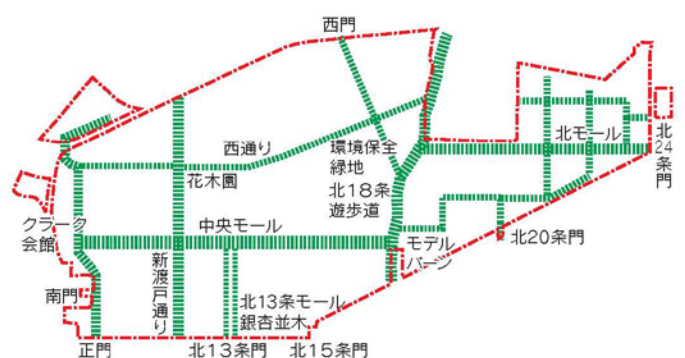
ゲートとトラフィック・セル

ゲートより近隣のゾーンにアクセス可能とし、キャンパス内の通過交通を抑制するトラフィック・セルを完成させ、車両動線の骨格とします。

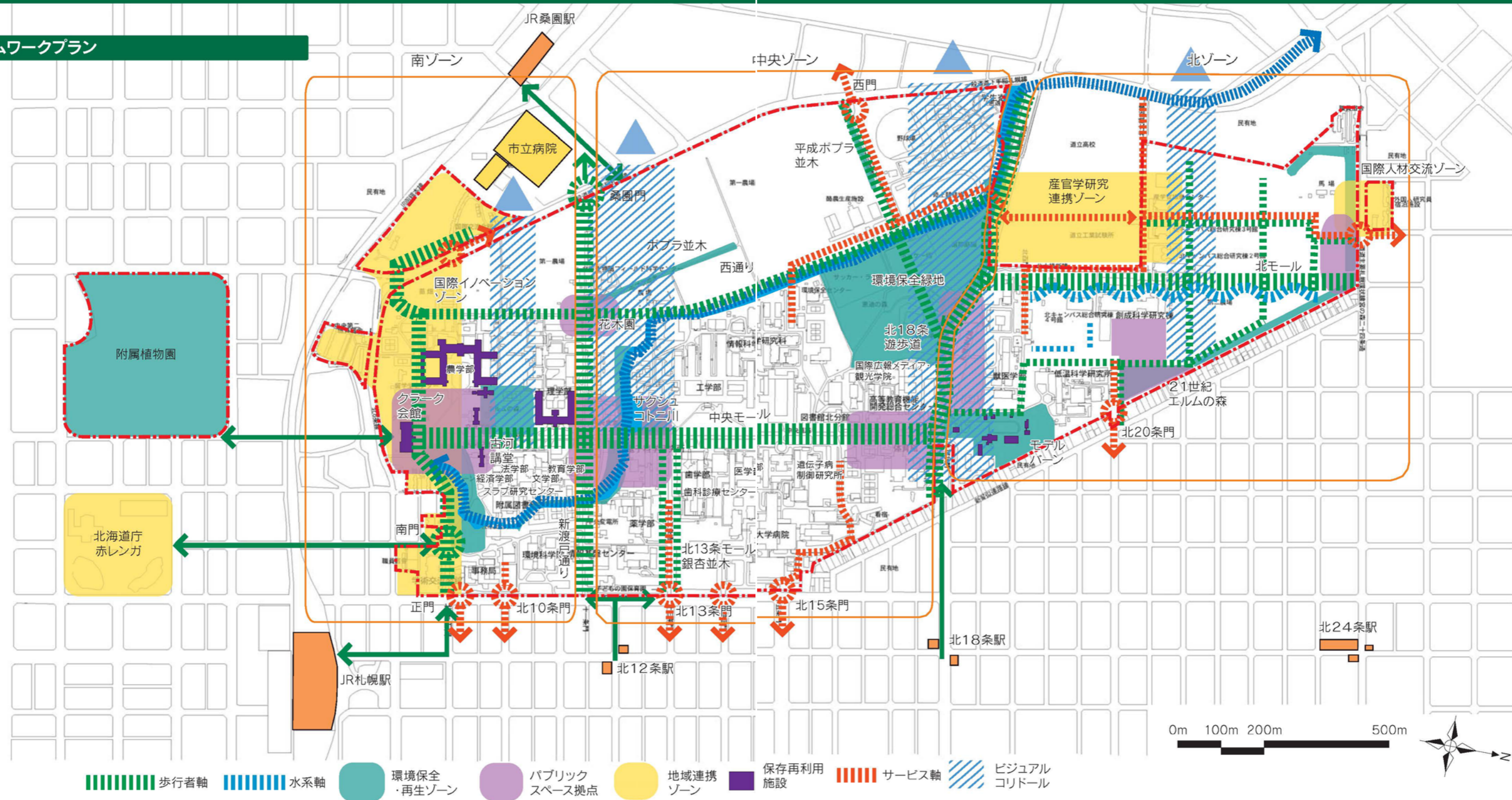


歩行者動線のネットワーク

中央モール、西通りと北モールを基軸として、歩行者動線のネットワークをつくり、キャンパス空間の新たな骨格とします。



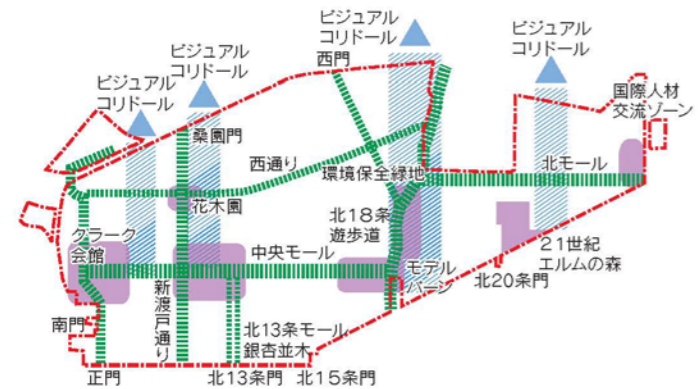
フレームワークプラン



- 歩行者軸
- 水系軸
- 環境保全・再生ゾーン
- パブリックスペース拠点
- 地域連携ゾーン
- 保存再利用施設
- サービス軸
- ビジュアルコリドール

パブリックスペース拠点

様々な交流がおこる中心(ハブ)を、パブリックスペースとして位置付けます。キャンパス空間の骨格としてビジュアルコリドールを設け、キャンパス景観が保全できるような施設配置計画とします。



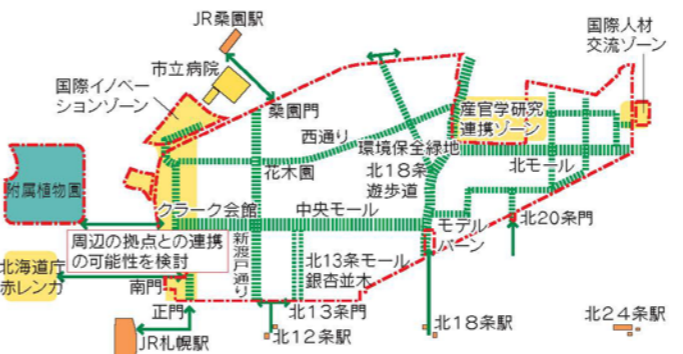
自然・生態環境の骨格

キャンパスの持続的な発展の基盤を形成するために、生態環境の保全・再生とともに、それらがネットワークされる骨格づくりを目指します。



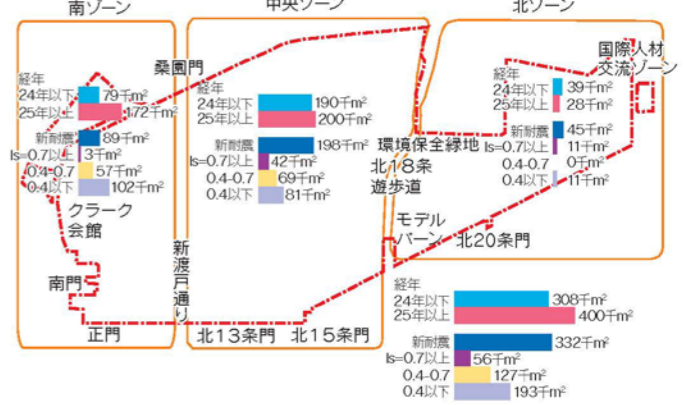
地域連携

地域と連携しながら整備していくゾーンを定め、大学キャンパスと周辺地域の相互のニーズを達成する整備や機能の配置を行います。



施設・環境マネジメント

南・中央・北の3つのゾーンを施設・環境マネジメントの単位として捉え、計画・実現を図ります。

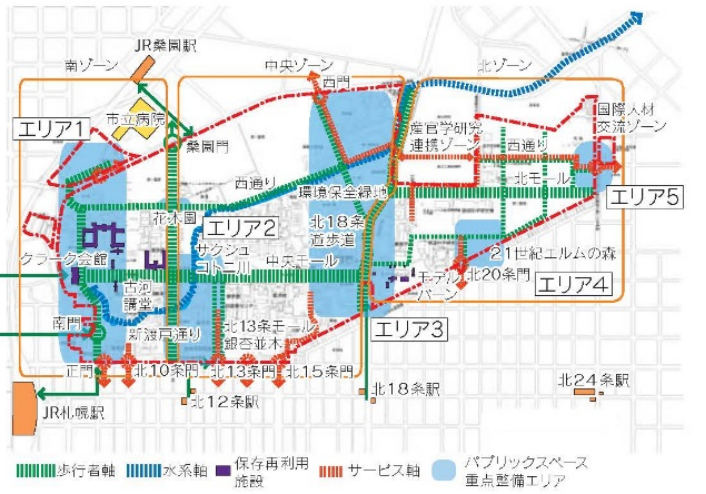


アクションプラン

ACTION PLAN

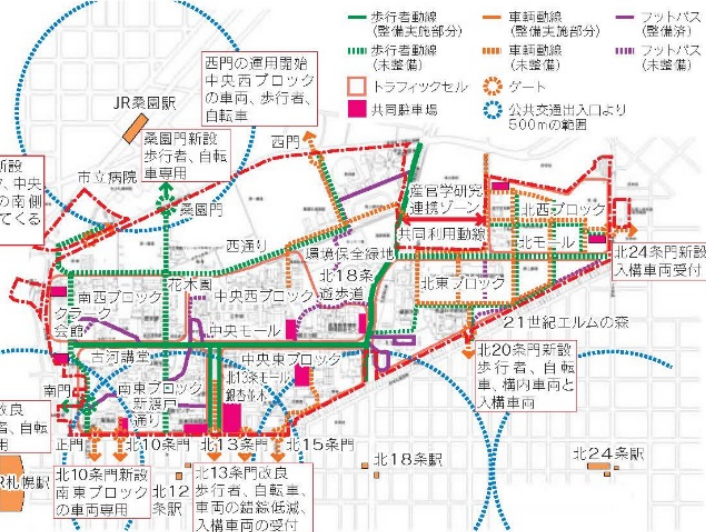
パブリックスペースの整備方針

魅力的な特徴を持ったパブリックスペースをキャンパス内の大きな骨格として5つのエリアを重点的に整備します。



交通動線計画

「自動車交通の総量コントロール」「トラフィック・セル」「歩行者ネットワーク」の最終的な構築と運用を目指し、段階的なプログラムによる交通マネジメント実現を目指します。



建築物のガイドライン

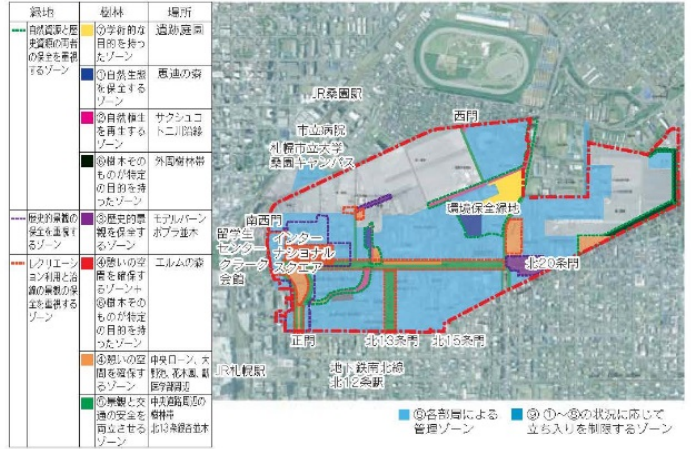
北海道大学として持続的な建築を成立させるために、「省エネルギー」「長寿命化」「エコマテリアル」「環境保全・景観形成」「安全への配慮」の5つの項目を重視した計画・設計を行います。

サステナブル建築のための5つの柱

- 省エネルギー** キャンパス全体の環境負荷低減を図るため、室内環境のための負荷要素を低減し、室内温熱環境の質的向上と消費エネルギーの削減、さらに自然エネルギーの有効利用を重視します。
- 長寿命化** キャンパスのサステナブルな発展を可能にする、躯体、設備の長寿命化と、経年劣化等の外的要因のみならず、研究内容等の変化に対応するフレキシビリティを確保します。
- エコマテリアル** キャンパス施設が、環境配慮型建築のモデルとなるような、環境負荷の少ない材料の採用、地場産出資材の積極的な活用を図ります。
- 環境保全・景観形成** キャンパス内自然環境の保全、キャンパス全体の景観形成に寄与します。
- 安全** キャンパス施設として要求される建物自体の安全性の確保と、研究・実験環境としての安全性を確保します。

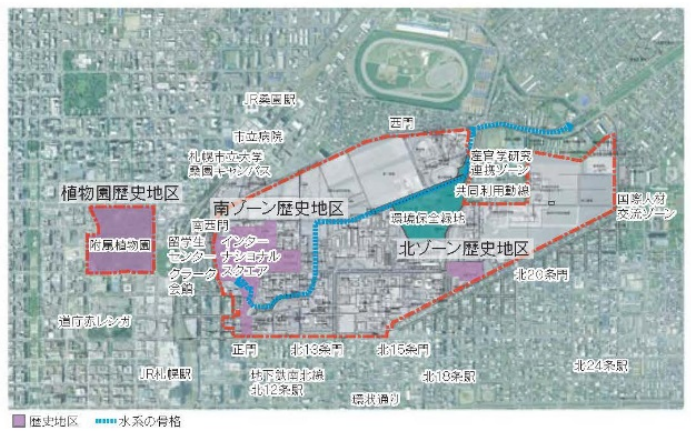
環境のガイドライン

「自然資源と歴史的資産の両者の保全」「歴史的景観の保全」「レクリエーション利用と沿線の景観の保全」を重視する3つのゾーンを設定し、緑地の保全と利活用のガイドラインを定めます。



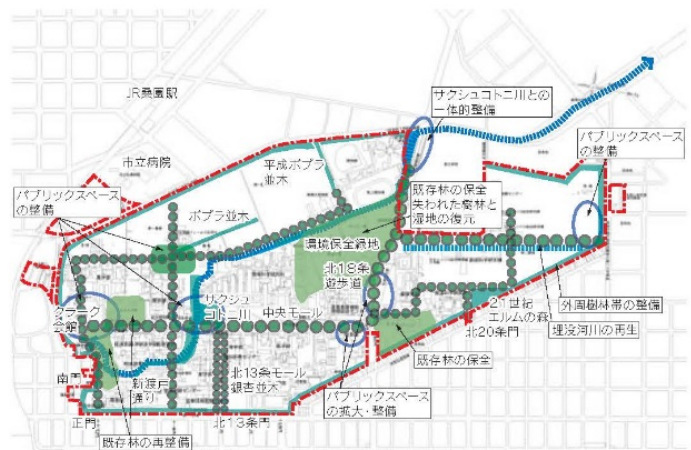
キャンパス資源の利活用（歴史的建造物）

歴史的建造物の保存活用と管理運営計画の立案のために特に重点をおくエリアを「北ゾーン歴史地区」「南ゾーン歴史地区」「植物園歴史地区」とします。



キャンパス資源の利活用（自然・生態環境）

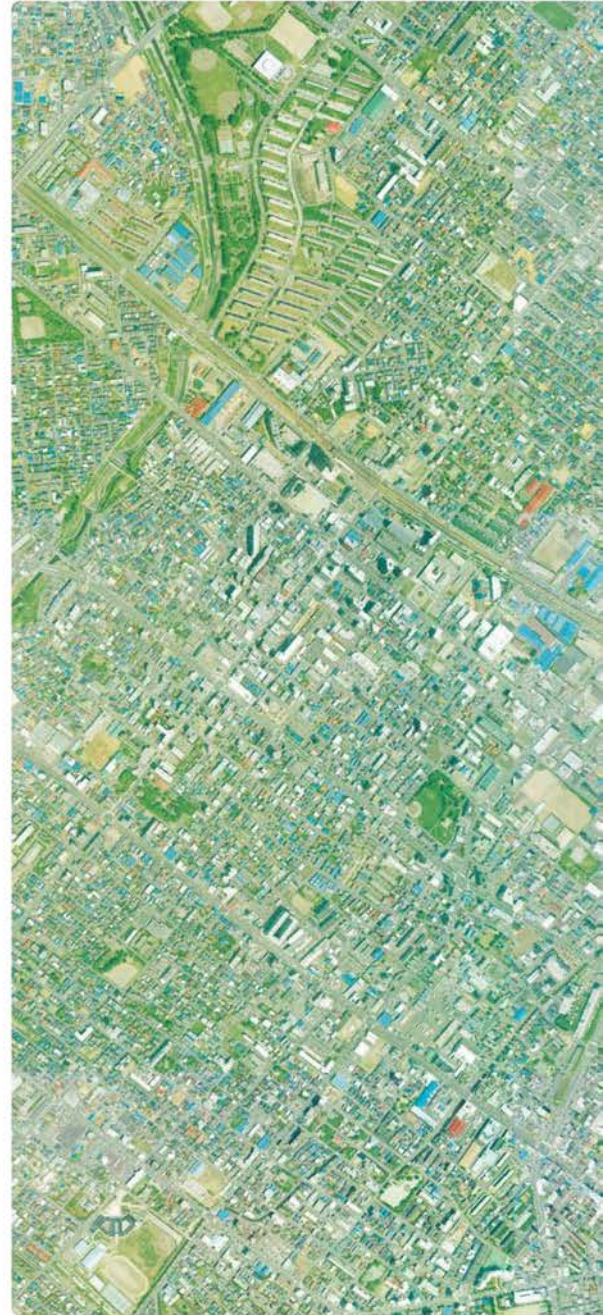
サクシュコトニ川の再生を自然・生態環境の骨格とし、さらに北ゾーンにも連続的にネットワークすることができる骨格の形成を目指します。





北海道大学

CAMPUS MASTER PLAN 2006
HOKKAIDO UNIVERSITY



お問い合わせ

北海道大学 施設・環境計画室
施設部施設企画課

〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL.011-706-2838 FAX.011-706-4886

北大のホームページでも詳しい情報を公開しております

<http://www.hokudai.ac.jp>

R2100
100% RECYCLED PAPER

